

新国立劇場開場15周年 2012/2013 シーズン演劇公演

With ーつながる演劇・ドイツ編ー

つく、きえる

作◎ローラント・シンメルプフェニヒ 翻訳◎大塚 直
演出◎宮田慶子

2013年6月4日(火)～23日(日)
新国立劇場 小劇場

現代ドイツ第一線の作家は、現在の日本をどう見たか。

新国立劇場が、海外の演劇人とともに、普遍的なテーマを探り新作を生み出していくシリーズ企画 [With ーつながる演劇ー]。その第3弾目となるのが、第一線で活躍するドイツの劇作家、ローラント・シンメルプフェニヒに書き下ろしを委嘱した『つく、きえる』です。

「眼鏡をかけた若者」が働くホテルで密会を重ねる3組のカップル、その「若者」と携帯電話のメールだけでつながる「自転車を持っている娘」。明かりが消え、明かりが点く、その瞬間に全く変わってしまった世界で、それぞれ何を感じ、何を思うのか…。3. 11の津波や原発事故にインスパイアされた透明感のある詩的な台詞は、作者が4年前に初来日した際に感じた「東京」、そして昨年、福島県沿岸部を訪れた体験が投影されています。

物語の中心となる「若者」と「娘」には、中村蒼、谷村美月のフレッシュな顔ぶれが揃い、切ない恋模様を展開。田中美里、大石継太、松尾諭ら実力派俳優とともに、新国立劇場芸術監督の宮田慶子が、シンメルプフェニヒの鋭い視点に挑む、刺激的な舞台です。

【4月20日(土)チケット前売り開始 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 高根佳子

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 茂木令子

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

シリーズ[With]特設サイト開設!
<http://nnttplay.info/with3/>



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎シリーズ企画「With—つながる演劇—」について

新国立劇場演劇部門では、2013年4～6月に、シリーズ「**With**—つながる演劇—」として、英国ウェールズ、韓国、ドイツの演劇人とともに、三つの書き下ろし新作を3カ月連続で上演します。それぞれの作品で、3カ国の国立劇場／国立劇団の芸術監督が演出にあたるという、注目度の高い刺激的な企画です。

「今を映し出す鏡」、「今に投げかける考えや思いを託す芸術」である演劇として、世界に共通する問題、そして、世界から今の日本の私達に投げかけてくるテーマを、土台となる戯曲から立ち上げ、考えを交換し、共有し合いながら舞台を作り上げたいというのが、今回の「**With**」の企画意図です。

国や立場を超え、それぞれが多くの思いを胸に打ち合わせを重ねた末に誕生したのが、『効率学のススメ』、「アジア温泉」、「つく、きえる」の3本。各国の伝統や独自性を再認識すると同時に、国を越えて共有する現代の課題と向き合いながら、次の時代の可能性を共に探る書き下ろし戯曲です。

ウェールズ編『効率学のススメ』では、経済性・効率性至上主義に問いを投げかけ、韓国編「アジア温泉」では、アジアに根差す共通の土俗性と経済性との対立を寓話の姿でかたち作り、ドイツ編「つく、きえる」では、大震災に想を得て、日常の脆さや拠り所の無さを描き出します。

「今」をみつめながら、「世界の今」とつながる「**With**」の三つの舞台に、ご期待ください。

With—つながる演劇・ウェールズ編—

『**効率学のススメ**』 4月9日～28日 小劇場

作:アラン・ハリス 翻訳:長島 確

演出:ジョン・E・マグラー[ナショナル・シアター・ウェールズ芸術監督]

With—つながる演劇・韓国編—

『**アジア温泉**』 5月10日～26日 中劇場

作:鄭 義信

演出:ソン・ジンチュク[韓国国立劇団芸術監督]

With—つながる演劇・ドイツ編—

『**つく、きえる**』 6月4日～23日 小劇場

作:ローラント・シンメルプフェニヒ 翻訳:大塚 直

演出:宮田慶子[新国立劇場演劇芸術監督]

新国立劇場 開場15周年
2012/2013シーズン演劇公演

With
シリーズ—つながる演劇—

英国ウェールズ・韓国・ドイツと
つながる、刺激に満ちた新作書き下ろし
三作品連続上演がついに実現!!
芸術監督 宮田慶子 主催 新国立劇場

2013年4月から6月、新国立劇場の演劇が新たに立つ
素晴らしい三作品。ウェールズから、韓国から、ドイツから、
次々と驚きする新作をお見逃しなく!
特設サイトあり! | 新国立 つながる演劇 | 詳細

お得意なセット券 発売! 全席17,850円(税込) 15,700円(税込)
三作品 特別割引選し券 観劇券 2013.2/24(日)10:00—

国を超えて新国立劇場に集結 2013年春からの意欲作

ウェールズ編
『**効率学のススメ**』
The Opportunity of Efficiency by Alan Harris
人生は数値で測ることができるのか。
ウェールズの最先端コンビが現代社会を揺るぎなく
【作:アラン・ハリス 翻訳:長島 確 演出:ジョン・E・マグラー】
2013.4.9(水)～28(日) 小劇場

韓国編
『**アジア温泉**』
아시아온천 by Jeong Gyeon
【韓国ドラマの聖典作が書き下ろし、韓国演劇界の巨匠・
孫振策が演出、日本の俳優がダイナミックに演じる祝祭劇】
【作:鄭 義信 翻訳:朴 寛 演出:ソン・ジンチュク】
2013.5.10(金)～26(日) 中劇場

ドイツ編
『**つく、きえる**』
AN UND AUS by Roland Schimmelpfennig
現代ドイツの第一級作家は現代の日本をどう見たか。
その視点に宮田慶子が捉える、衝撃の舞台
【作:ローラント・シンメルプフェニヒ 翻訳:大塚 直 演出:宮田慶子】
2013.6.4(水)～23(日) 小劇場

お問い合わせ
ボックスオフィス TEL.03(5352)9999
10:00—18:00 休館日、休演日、休演日(休演日)

新国立劇場
1999 | www.ntj.go.jp

◎作品について

シリーズ「*With* 一つながる演劇ー」のラストを飾る『つく、きえる』(原題: *AN UND AUS*) は、現代ドイツ演劇界の第一線で活躍し続けるローラント・シメルプフェニヒによる書き下ろしです。

2009年『昔の女』上演に際し初来日した作者が、当時自ら歩き回って感じた「東京」、そして2011年3月以降の、外から見える「日本」を通して、「今この瞬間から、私たちはどう生きて行くのか」ということを、その独自の視点と手法で描きます。その視点に宮田慶子がどう応えるのかに注目が集まります。

今、ドイツ、オーストリアなどでもっとも多くの作品が上演されているシメルプフェニヒの新作が、ドイツ語圏以外の国で世界初演を迎えることも話題の公演です。

◎あらすじ

小さな町の小さな港の小さなホテル。

そこでは3組の夫婦による不思議な密会が繰り広げられている。

A氏と、Y夫人。彼らは毎週月曜日の昼食をここで共にする。

Y氏と、Z夫人。彼らは毎週月曜日の午後をここで過ごす。

Z氏と、A夫人。彼らは毎週月曜日の夕方をここで過ごす。

一人の若者がこのホテルを運営している。彼は丘の上にいる女の子と哀しい恋をしている。

彼女は時計台の上で仕事をしていて、この港には決して降りてくることがない。

二人は携帯電話のメールで繋がれている。

ある月曜日、なぜだかホテルは海の底の大きなあぶくに包まれる。

外界と遮断されたホテルに取り残された人々。

秘め事は露呈し、対立が生まれ、そうして彼らはやがて、彼らなりの「道」を模索し始める。

◎作者 ローラント・シンメルプフェニヒからのメッセージ

初めに新作執筆の依頼を受けた時、まず私に興味を持っていただけたことをとても嬉しく感じました。が、同時に難しさも覚えました。震災を経験した日本において、そして世界においても、フクシマが意味することは一体何か。それはとても重要なことです。芸術や劇場が、こうした深刻で、悲しみの多いテーマを扱えるのか、と。また、亡くなった方々のことも考えました。その上でやはりオファーは受けるべきだ、と考えました。芸術、あるいは人間が演じる演劇こそが、きわめて大きな痛みを伴う体験を物語ることが出来ると思ったからです。

2011年の震災以降、フクシマは今なお日本及び全世界に大きく影を落としていいます。いつ終わりが来るとも言えない状況が続いています。日本は津波で亡くなった人々を悼みながら、この先どういった影響が起きるのか不確かなまま生きて行かなければならない状況にいるのです。

あの事故は、人類が原子力という獣を手なずけることなんか出来ないんだ、ということを見せつけ、エネルギーというものに対する概念を——少なくともドイツにおいては——すべて覆しました。フクシマは日本だけの問題ではない。全世界に向けて疑問を投げかけたのです。

ツナミや現代社会がもたらした事故で多くの命を失った、フクシマのような大きな出来事を経験した日本の人々に向けて、どんな形態のアートでその意味を表現できるのか…。それでも、ヨーロッパの劇作家としての私の視点からしても、この問題はローカルの、一国の問題ではありません。本作の主題、そして投げかけるべき大きな問題、「我々はここからどこへ行けばいいのか」ということについても、万国の観客に向かって呼びかけるべき問題だと思っています。

日本の観客の皆様のために新作を作ることが出来て、嬉しく思っています。大変光栄であると同時に、大きなチャレンジでもあります。作家として出来ることを全力でやり、今回の上演の成功に寄与したい。観に来て下さる皆様にとって意義のある作品を書きたいと思っています。単なる娯楽ではない作品を。

◎演出家 宮田慶子からのメッセージ

ジャーナリスト出身でもあるシンメルプフェニヒ氏の作品は、ロマン主義の感覚を持ちながらも、時には冷酷なほど冷静です。2009年に上演された『昔の女』でも、“反古にされた約束の話”という明快なコンセプトのもとに、それぞれの登場人物を、共感させ過ぎることなく、少し突き放すように描いています。それが実に現代的なリアリティを生んでいます。次の時代に向かって、有効なコミュニケーションとは何なのか…。そんなことを、共に (With) 考える企画にしたいと思っています。

◎プロフィール

作◎ ローラント・シメルプフェニヒ (Roland Schimmelpfennig)



1967年、西ドイツ・ゲッティンゲン生まれ。高校卒業後、ジャーナリストをしてトルコのイスタンブールに滞在後、ミュンヘンのオットー・ファルケンベルク演劇学校で演出を学び、ミュンヘン市立劇場にて演出助手／共同制作者として演劇活動始める。96年にフリーの劇作家となり、2000年からハンブルク、ウィーン、チューリッヒ、ベルリンなどドイツ語圏の主要な劇場から執筆依頼を受けて、ロマン主義の感覚や映像メディアの手法を持ち込んだ斬新な演劇テキストをほぼ毎年のように提供、ドイツでは現在最も上演回数の多い現代劇作家となっている。

これまでの主な戯曲に『永遠のマリア』『春物の服を着た若い女性に仕事はない』『町から森へ、森から町へ』『五月の長い時を前に』『アラビアの夜』『前と後』『昔の女』『グライフスヴァルト通りにて』『イドメネウス』『金龍飯店』など。

演出◎ 宮田慶子 (みやた・けいこ)



1957年生まれ、東京都出身。80年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきとき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。2010年9月より、新国立劇場演劇芸術監督。新国立劇場演劇研修所講師・サポート委員。社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。

主な受賞歴に、94年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞(『MOTHER』青年座)、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(『フユヒコ』青年座)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(新国立劇場公演『ディア・ライアー』)、01年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(『赤シャツ』『悔しい女』青年座、『サラ』松竹)など。

上記以外の主な演出作品に、『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と丸ちゃん』『千里眼の女』『をんな善哉』(青年座)、『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『紫式部ものがたり』『ガブリエル・シャネル』(松竹)、『ノイズオフ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』(ホリプロ)、『ふたたびの恋』『LOVE30』『Triangle Vol.1, Vol.2』(パルコ)、『伝説の女優』『ウェディング・ママ』(アトリエ・ダンカン)など。

新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を、芸術監督就任以降は『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』『朱雀家の滅亡』『負傷者16人 - SIXTEEN WOUNDED -』『るつぼ』『長い墓標の列』、オペラ『沈黙』を演出している。

眼鏡をかけた若者◇ 中村 蒼 (なかむら・あおい)



1991年、福岡県出身。

2005年度 第18回ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト グランプリ受賞。

06年に舞台『田園に死す』で主演、俳優デビュー。07年より本格的に俳優として活動を開始、映画、ドラマ、舞台のほか、情報番組などにも出演、縦横無尽にその活躍の場を広げている。近年の主な出演作品に、映画『ハラがコレなんで』『行け!男子高校演劇部』『キミとボク』『大奥』『BECK』『ひやくはち』、ドラマ『息も出来ない夏』『花ざかりの君たちへ～イケメン☆パラダイス～2011』『エンゼルバンク～転職代理人』『Q.E.D.証明終了』、舞台『熱海殺人事件 NEXT～くわえ煙草伝兵衛捜査日誌～』『カレーライフ』など。

新国立劇場公演には初登場となる。

自転車を持っている娘◇ 谷村 美月 (たにむら・みつき)



1990年、大阪府出身。

2002年、ドラマ『まんてん』で本格的に女優デビュー。05年、映画『カナリア』で映画初出演・初主演を飾り、第20回高崎映画祭最優秀新人賞を受賞。若手実力派女優として、次々に話題の映画、ドラマ、舞台に出演し続けている。近年の主な出演作品に、映画『その夜の侍』『逆転裁判』『海炭市叙景』『阪急電車 片道15分の奇跡』、ドラマ『八重の桜』『プラチナ タウン』『たぶらかし～代行女優業・マキ』『本日は大安なり』、舞台『騒音歌舞伎 ボクらの四谷怪談』『ヴィラ・グランデ青山～振り返りの日曜日～』『2番目、或いは3番目』など。

◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、リーディングあり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

『つく、きえる』が上演される6月は、同作の作家ローラント・シンメルプフェニヒの秀作戯曲をリーディング形式にて上演します。

それは、あるマンションの何気ない日常空間のはずだった。そのマンションの8階でフランスカはシャワーを浴びていた。シャワーを浴び、日が沈むと同時にソファで深い眠りに落ちる彼女の元を3人の男が訪れる— 向いのマンションに住むカルパチ、同居している友人ファティマの恋人カシル、そしてマンションの管理人ローマイアー。いつもの現実的な世界に、象徴的なイスラムの幻想空間が入り込む。ファンタジーとリアルの境界が融解する。

閉ざされた中で依存しあう人間関係を通して、グローバル化された現代社会の閉塞感を描きます。

リーディング公演「アラビアの夜」

作： ローラント・シンメルプフェニヒ

翻訳： 大塚 直

演出： 宮田慶子

日時： 2013年6月16日(日)17:00、18日(火)19:00

会場： 新国立劇場 小劇場

5月21日(火)～6月10日(月)の応募期間内に、新国立劇場ウェブサイト所定のフォーマットもしくは往復ハガキでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場マンスリー・プロジェクトのウェブサイト(<http://www.nntt.jac.go.jp/play/mp/>)か、情報センター(03-5351-3011(代))でご確認ください。

◎公演概要

【タイトル】 つく、きえる

【スタッフ】 作 ローラント・シンメルプフェニヒ
 翻訳 大塚 直
 演出 宮田慶子
 美術 土岐研一
 照明 佐藤 啓
 音響 長野朋美
 衣裳 高木阿友子
 ヘアメイク 川端富生
 演出助手 大澤 遊
 舞台監督 澁谷壽久
 芸術監督 宮田慶子
 主催 新国立劇場
 協力 東京ドイツ文化センター

【キャスト】 中村 蒼 谷村美月 田中美里 大石継太
 松尾 諭 津村知与支 枝元 萌 河合杏南

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2013年6月4日(火)～23日(日)

2013年	6/4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00					●	◎						◎	●						◎	●
14:00		●	●★				休演	◎	●					休演	●	●				
18:00												●							◎	
19:00	●			●						●	●						●	●		

◎＝託児室あり(要予約) / ★＝終演後、シアタートーク / 6/16 17:00、6/18 19:00＝マンスリー・プロジェクト

【前売開始】 2013年4月20日(土)10:00～

【料金】 A席 5,250円 B席 3,150円

(三作品特別割引通し券〈With-つながる演劇-〉を発売。『効率学のスズメ』『つく、きえる』各A席、「アジア温泉」S席がセットで15,700円(正価17,850円のところ))

【チケット申し込み・問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【その他チケット取り扱い】

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、CNプレイガイド ほか

* **Z席 1,500円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。